

広島県立美術館

研究紀要

第21号

高中惣六・隆司 父子

～「地方作家として活躍することを決意」した漆芸家 …………… 宮本 真希子 1(38)

広島県立美術館所蔵『諸家書画帖』についての覚書 …………… 隅川 明宏 38(1)

2 0 1 8

BULLETIN
OF
HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM

No.21

On Album of Calligraphies and Pictures by Various Artists owned by Hiroshima Prefectural Art Museum (1) 38
SUMIKAWA, Akihiro

Lacquer artists, Soroku and Ryuji TAKANAKA – Father and son who decided to flourish based in their home locality (38) 1
MIYAMOTO, Makiko

2018

HIROSHIMA PREFECTURAL ART MUSEUM
HIROSHIMA JAPAN

広島県立美術館所蔵『諸家書画帖』についての覚書

隅川明宏

はじめに

広島県立美術館所蔵『諸家書画帖』（以下、本帖）は、二十六丁の表裏に五十二名による書二十二面と画三十面を所収している。本帖はこれまでも展覧会等で出品されているが、図版を伴う全容紹介は適わず、一部の作品紹介に限定されてきた。^① そのなかで、全容に初めて言及したのは伊藤紫織であり、大名による揮毫を数多く含んでいる点を本帖の特徴として認めている。^② しかしながら、本帖の出自・来歴等は明らかでなく、その考察に及ぶところは多くない。

本稿では、伊藤の調査成果を参照しつつ印文等の再検討を行ない、一部に修正を加えて【別表】を提示した。^③ この【別表】を踏まえて、本帖の体裁を確認し、作品の揮毫者と収集者の関係について、簡略な考察を加えることにする。なお、【別表】は書と画に分別して、干支の記述があるもの、年齢書のあるものから制作年順に配列し、制作年の不明なものは、制作下限年代となる揮毫者の没年順に配列した。そして、経歴不詳のものを最後に記したが、揮毫者同定の当否を含めて、現時点の調査結果に基づくものであつて、引き続き調査を必要とすることを断つておく。

一 本帖の体裁について

本帖所収の全作品には、縦四一・九cm、横三三・二cmに統一された大判の画絹が用いられている。このことは、収集者が、当初から書画帖作成を目的として寸法を調べた画絹を用意し、折々に揮毫依頼を行なったことを示している。また、制作年代の明らかなのは、寛政五年（一七九三）から文化十四年（一八一七）まで、二十四年間にわたっている。所収作品は、長期にわたって収集されたことが分かる一方、その配列は年代順でなく、成立当初の体裁を保っているわけではない。

現状では、表面は書一枚、画二枚、裏面は書一枚、画一枚の順に貼り付けている。しかし、表裏両面の冒頭に和歌一首を揮毫した書を各一枚おき、本帖の題字に相当すると思われる文化十年（一八一三）揮毫の本多忠永（二大字「楽口」）【図43】を裏面の中程に収めているように、配列に際して作品の内容にはさほど注意を払っていない。

ところで、諸名家の揮毫を求めて作品を収集する書画帖の流行は、十八世紀後半に起り、以降、文化文政期に最も盛行した。^④ そのなかで、書画帖作成を試みる収集者の経済基盤や趣味趣向によって、収集方法や装丁に

も相応の差異を認めることができ、このことは収集された書画の品質の良し悪しにも繋がっていく。本帖の場合、収集された書画には、良質かつ興味深い作品が多い。また、装丁は成立当初の姿でないと考えられるが、表紙に牡丹唐草文を表わした裂や飾り金具を用いた大判厚手の折帖仕立てで、一見して大名家の伝来品と推定しうる。もっとも題簽には題名を記しておらず、序文、跋文はなく、付属品も伝わらないため、本帖のみで完結しているのか、他に一括となる書画帖があったのかは判断できない状況である。こうした本帖の成立背景に多少なりと近付くために、所収作品の傾向について、絵画を中心として検討に進むことにする。

二 揮毫者と収集者の関係について

まず、伊藤紫織が本帖の特徴として注目する、大名の作品を取り上げよう。【別表】によれば、揮毫者のうち大名、すなわち藩主（藩世子含む）は、全体の五分の一を超える十一人を数える。

制作年の判明する作品で早い時期に属する画には、阿部正精《楼閣山水図》【図23】がある。藩世子として「対馬守」を称する二十二歳の作品で、正精は南蘋流の花鳥画にも巧みであるが、ここでは詩意から山水風景を作り上げている。一方、柳沢里之《水仙小禽図》【図40】、森長義《小禽図》【図44】、酒井忠貫《薔薇小禽図》【図11】などは、博物学的な流行も受けた異国の色鮮やかな鳥類を描くもので、大名家における南蘋流受容に関わる一面を見ることができるといえる。

阿部正精の父である阿部正倫《牧牛図》【図21】には、首をはね上げる牛の動態や淡い緑を湛える樹木の描写などから、本歌としての雪舟《倣李唐

牧牛図》（室町時代／浅野家伝来／山口県立美術館）が浮かび上がる。同様に古画を本歌にするとみられる大名の作品には、間部詮允《維摩居士図》【図28】を収めており、これには伝李公麟《維摩居士像》（南宋時代／黒田家伝来／京都国立博物館）の姿態が重ねられる。また、大名かどうかは不明であるが、甫亭《籠雀図》も、伝宋汝志《雛雀図》（南宋時代／浅野家伝来／東京国立博物館）を本歌にとるものであろう。

彼ら大名は、江戸と国許を行き来し、あるいは江戸定府を義務付けられている。これらを収める本帖の収集者は、もっぱら江戸で、大名間における流行や所蔵作品を介した交流を重ねる中で、揮毫依頼を行っていたと考えられるのではないだろうか。この際、広島浅野家や福岡黒田家の所蔵となった作品が想起されることが留意しておきたい。

次いで、大名を除く揮毫者について、主な活躍地にしたがって眺めてみると、江戸・京・大坂の三都を中心に構成されるのは当然としても、広島2名、長府2名、福岡2名、尼崎1名を挙げられる。広島藩では岡岷山、平田玉蘊。長府藩では笹山伊成、度会東明。福岡藩では石里洞秀美之（江戸詰）、亀井昭陽。また尼崎藩では服部小山（江戸詰）がいる。この西日本の四藩に属する彼らの中で異色なのは、藩籍にない広島藩尾道の平田玉蘊である。

平田玉蘊は、尾道で作画活動を行なった女性絵師である。書画帖の例には全国で活躍する画家の総覧を意図したものがあって、たとえば、寛政十二〜十三年（一八〇〇〜一八〇二）頃の収集活動に基づく『楽翁画帖』（平野美術館）に、早くも玉蘊作品が所収されている。⁵⁾このことから、若年から画才を囑望された人物であったことは分かるが、手軽さを感じさせる作品であることも否めない。一方、本帖所収の《唐美人図》【図42】は、文化年間前半頃の制作に比定されるもので、濃厚な発色を呈する作品であ

る。玉蘊は、文化五年（一八〇八）には「城中」からの揮毫依頼を受けたという。⁶この際の揮毫が、本帖所収作品に直ちに結びつくわけではないが、広島藩から浅からぬ関心を受けていた可能性を示唆している。また、大名や幕府、三都の著名な画家、書家、儒家らに絞って揮毫を求めている本帖の、幾分、閉ざされた収集態度のなかで、あえて市井の女性画家に揮毫を求めている点は、本帖の来歴をうかがうために注意してよい。

続けて、岡岷山《梅花小禽図》【図5】は、寛政年間以降の作品である。岷山の作品を収める他の書画帖でよく知られるものには、『楽翁画帖』の《山水図》、『奉時清玩帖』の《雲龍図》がある。⁷《雲龍図》は、狩野派の画風に基づくが、淡泊な描写とも言いうる作品である。一方、本帖における作品は、宋紫石風の濃厚細密な描写によって長寿を寿ぐ吉祥画題である。もちろん主題や画風の選択は揮毫依頼の内容によるが、先に確認した大名の絵画作品のほか、鏑木梅溪《桃鴨図》【図18】や林述斎《草虫図》【図8】を収めるなどして、南蘋流の花鳥画を集める傾向を持つ本帖の収集者にとって、とりわけ望ましい作品となったのではないか。また、岷山にとって、主家の浅野家に関わる揮毫であったと仮定すれば、本作品の質の高さにも肯くことができる。

さて、広島藩、浅野家との関係に言及したが、同様の関係を求めることができそうな作品が、他にもある。たとえば、狩野洞白愛信《蓮龜図》【図26】、狩野探信守道《唐人図》【図32】である。両名には、浅野家が嚴島神社に奉納した絵馬の揮毫者であるという共通点がある。文政元年（一八一八）に洞白愛信、天保三年（一八三二）に探信守道の揮毫した大絵馬が奉納されている。⁸狩野派には奥絵師四家、表絵師十五家があつて、各藩にも懇意にする狩野派の家系があつた。文化文政期の広島藩では、洞白

愛信の属する駿河台狩野家、探信守道の属する鍛冶橋狩野家がそうであつたと思われる。なお、本帖には長府藩の笹山伊成《唐人物図》【図12】、福岡藩の石里洞秀美之《波旭日図》【図36】を含めて、4点の狩野派作品を収めている。このように狩野派絵師の作品複数を所収する点は、大名家における収集書画帖の特徴を示すのだろう。

加えて、もう一点挙げてみよう。加藤信清《孔子像》【図17】である。論語・孝経の語句をもって孔子を描いた文字絵で、六十九歳の年齢書がある。現在、信清の作品として報告されるものは、晩年近くの二十点余りというが、なかには広島県三原市の古刹・仏通寺に伝来する作品《文字観音図》もある。⁹その作品が、いつ頃、どのような経緯で仏通寺に納められたのかは不明であるが、仏通寺は広島藩の庇護を受けている。本帖が浅野家の収集品であるとするならば、作品所収において、仏通寺を介した関係があつたと考えることもできる。

このほかの絵師については、幕府の絵師で板谷桂舟広当、京坂の画家では、森祖仙、原在中、原在正らの注目すべき作品を含んでいる。しかし一方で、当時、隆盛を極めた流派である円山四条派の作品は、長府藩の度会東明《虹鹿図》【図30】が該当する程度で、その他の著名な絵師の作品は見られない。このため、東明の作品として円山四条派の作品を求めて、というわけではなく、本帖の収集者と長府藩とに関わりがあつたことから、収集対象になつたということなのだろう。

さて、本帖所収の作品が、明確な目的をもって一定期間のうちに収集されたものでなく、多年の交遊関係の中で折々の機会に収集されたものであるならば、先に言及したように本多忠永《二大字「楽口」》は、その収集姿勢に適うものと思われ、題字として位置付けるにふさわしい。「楽口」の典

拠を求めると、『詩経』に至る。その一節に「楽只君子。邦家之光。楽只君子。万寿無疆。」とあることも示唆深く思われるのだ。

おわりに

一点の書画帖が成立する背景を読み解くことは容易ではなく、本稿は、わずかな推測を重ねたに過ぎないが、一応のまとめをしてみよう。

本帖における主要な揮毫者が大名であることに異論はない。そこで、大名の絵画作品のなかに、浅野家伝来の宋元・室町の古画を本歌とする作品を所収していることを確認した。また、広島藩、長府藩、福岡藩の絵師による作品が含まれているが、なかでも平田玉蘊の作品が所収されることは本帖の収集状況からすると異色で、広島藩との関わりが本帖成立の重要な基盤になっていると考えられた。広島藩との関わりを念頭に置けば、岡岷山や狩野洞白愛信、狩野探信守道の作品は収集対象としてふさわしく、狩野派絵師の作品を多数所収する点も、大名家の収集品に帰属させることに差し支えない特色を示している。また、現状、希少作品に位置付けられる加藤信清の文字絵が広島県内の古刹に伝来しており、彼の作品を所収する本帖との間に、わずかな結び付きが認められることを付記した。

このように本帖の内容を少しばかり探ってみると、本帖の収集者として、たとえば、寛政元年（一七八九）に元服・任官、寛政十一年（一七九九）に家督を継いで広島藩主となった浅野齊賢（一七七三〜一八三〇）を想定することも不可能ではない。決して性急に結論付けるわけではないが、このような見解を示すことも、本帖の理解を深める上で無益ではあるまいと考えて、後考に委ねたい。

【註】

(1) これまでに展覧会で紹介されている主な所収作品は、次の通りである。

【図5】岡岷山《梅花小禽図》

広島県立美術館編『近世広島島の絵画展』図録、平成二年（一九九〇）。千葉市美術館編『江戸の異国趣味―南蘋風大流行』図録、平成十三年（二〇〇二）。

【図42】平田玉蘊《唐美人図》

広島県立美術館、前掲図録（一九九〇）。広島県立歴史博物館編『頼山陽を愛した女流画人 平田玉蘊』図録、平成二十七年（二〇一五）。

【図40】柳沢里之《水仙小禽図》

神戸市立博物館編『花と鳥たちのパラダイス』図録、平成五年（一九九三）。千葉市美術館、前掲図録（二〇〇一）。

(2) 千葉市美術館、前掲図録（二〇〇一）。

(3) 参考として釈文を掲載する。改行、字体については適宜改めており、判読できなかった箇所については（不明）あるいは□で表わした。誤読とあわせて叱正をいただきたい。なお、現状の配列に従って、作品番号、技法、作品名称を付した。

1 墨書《詠「春山成興」歌》

仙洞和歌御会始か事 春山成興

前権中納言持豊

さつきのみ □□□たてそ せかしをる

かすみのころも きたるやま〜

2 着色《鶯鳥図》

画所預従四位下土佐守藤原光貞「光貞之印」（白文方印）

3 着色《江村舟遊図》

月徳「月徳」（白文方印）「不明」（白文方印）

4 墨書《唐・盧綸「与従弟瑾同下第後出関言別」詩》

「蘭室」（朱文長方印）

雑花飛尽柳陰々 官路透迤緑草深

対酒已成千里客 望山空寄両郷心

- 5 着色《梅花小禽図》
享和改元春 頼救書「源頼救印」〔白文方印〕「字子徳」〔朱文方印〕
- 6 着色《秋草図》
岷山岡煥写「岡奘」〔朱文方印〕「君章」〔朱文方印〕
〔□翟〕〔白文方印〕
- 7 墨書《漢文》
竹楼教間 負山臨水 疎松脩竹 詰屈委蛇
怪石落落 不拘位置 藏書万卷 其中長凡
軟榻一番 一茗同心 良友間曰 過從坐臥
咲談隨意 所適不宮 衣食不問 米鹽不叙
寒暄不言 朝市立壑 涯分於斯極矣
己未六月 竹窓世黃録「森世黃」〔白文方印〕「離吉氏」〔朱文方印〕
- 8 着色《草虫図》
〔衡〕〔朱文方印〕
- 9 着色《梅人物図》
行年六十九歲桂舟画「藤原」〔白文方印〕
- 10 墨書《唐・陶淵明「四時」詩》
〔時習〕〔朱文長方印〕
春水滿四澤 夏雲多奇峯
秋月揚明輝 冬嶺秀孤松
親孝書「梯卿」〔朱文方印〕「親孝之印」〔白文方印〕
- 11 着色《蓋微小禽図》
酒井忠貫筆「巳洲」〔朱文壺印〕
- 12 着色《唐人物図》
伊成唯博筆「藤原」〔白文田印〕
- 13 墨書《漢詩》
〔不知老之將至〕〔白文長方印〕
簾櫳風暖午陰長 共度破眠□也主
何問黃梁嗒其富 起來斜氣公隣墻
- 14 着色《猿図》
春眠 録旧作 東所製「善韶」〔白文方印〕「東所」〔朱文方印〕
- 15 墨畫《嵐山春景図》
在中「致遠」〔朱文連印〕
- 16 墨書《南宋・張道洽「詠梅」詩》
〔聽松〕〔朱文長方印〕
詠梅 張道洽
邛笮苦為徑 茅檐竹作籬
神清和月写 香遠隔煙知
老樹有余韻 別華為此姿
詩人風味似 夢寐也忘思
享和三年癸亥春 天遊道人書「松倉靜印」〔白文方印〕「越山逸客」〔朱文方印〕
- 17 着色《孔子像》
〔二以貫之〕〔白文楕圓印〕
論語孝經写
- 18 着色《桃鴨図》
東都麻谷玉川上遠慶齋六十九壽謹書画「藤原」〔朱文田印〕「信清」〔白文方印〕
- 19 墨書《北宋・王禹偁「黃州新建小竹樓記」句》
梅溪平世胤写「世胤」〔白文重郭方印〕「君胄」〔白文重郭方印〕
〔□〕〔朱文長方印〕
夏宜急雨 有瀑布声 冬宜密雪 有碎玉声
七十九歲龍岡長雄書「竜岡」〔朱文方印〕「柴長雄印」〔白文方印〕
- 20 着色《大原女図》
東洲「成章」〔白文方印〕「東州」〔白文方印〕
- 21 墨畫淡彩《牧牛図》
阿部正倫画「勢州」〔白文重廓田印〕
- 22 墨書《題「櫻山鶴鹿図」詩》
〔淇園〕〔朱文楕圓印〕

- 瑞芝玉樹氣氤氳 寿鹿從容僊鶴群
 斯境由来不易到 碧天一朶躡波雲
 題僊山鶴鹿図 皆川愿「皆川愿印」〔白文方印〕「伯恭子」〔白文方印〕
- 23 着色《楼閣山水図》
 澗水雜雨鳴山閣 空翠因風濕客冠
 泉
 乙卯孟夏写 蕉亭「正精」〔白文連印〕
- 24 着色《馬図》
 在正「原致道印」〔白文方印〕
- 25 墨書《前漢・劉向『說苑』卷十一敬慎句》
 「□□威如」〔朱文長方印〕
 高而能下 滿而能虛 富而能儉 貴而能卑
 智而能愚 勇而能怯 弁而能訥 博而能淺
 明而能闇 是謂損而不極
 享和紀元辛酉孟夏之日 親軍將佐義行書「□□品下」〔朱文方印〕「藤春山」〔白文方印〕
- 26 墨画《蓮龜図》
 狩野愛信筆「狩野」〔朱文方印〕
- 27 墨書《詠「鶴」歌》
 「尚古」〔朱文楷印〕
 鶴
 天のはら 雲ぬにあそぶ まなつるを
 ふりさけみつ つ 齡□□□□
 需に應じて惟醇七十有三書「墨信」〔白文方印〕〔白文方印〕
- 28 墨画淡彩《維摩居士図》
 詮允「藤原詮印」〔白文方印〕「□□□」〔白文方印〕
- 29 墨書《漢詩》
 「□□□」〔白文長方印〕
 我心秋水如 亦如出泥蓮
- 水動蓮花落 慎風雅自憐
 空石幽人「龜井昱印」〔白文方印〕「元鳳」〔朱文方印〕
- 30 着色《虹鹿図》
 度松苑「東明」〔白文連印〕
- 31 墨書《唐・李世民「芳蘭」詩》
 春暉開禁苑 淑景媚蘭場
 映庭含淺色 凝露泣浮光
 日麗參差陰 風伝輕重香
 会須君子折 佩裏作芬芳
 乙丑晚夏 栖鳳樓南嶽「□□□印」〔朱文方印〕「東瀨」〔白文方印〕
- 32 着色《唐美人図》
 藤原守道「守道之印」〔白文方印〕「字清天」〔白文方印〕
- 33 墨書《漢詩》
 「樵白雲」〔朱文楷印〕
 非草木□□者何 名家吳下□詮耶
 □文分□宿煙幕 応莫虛中搨粉柯
 晋逸山陽□召飲 □風淇奥夢成顛
 此君高韻此君在 応莫写生工近多
 專門七十五翁華隱方明□「細合方明」〔白文方印〕「麗王氏」〔白文方印〕
- 34 着色《秋草鷄図》
 藤光紹筆「藤原」〔白文方印〕「光紹」〔朱文方印〕
- 35 墨書《唐・高駢「聽歌」詩》
 公子邀歡月滿樓 佳人揭調唱伊州
 便為席上秋風起 直到蕭闌水盡頭
 久「墨農硯樵」〔朱文方印〕
- 36 着色《波旭日図》
 顏輝筆意 法橋洞秀画「美之之印」〔白文方印〕
- 37 墨書《明・田芸衡「玉笑零章」句》
 「清風明月」〔朱文長方印〕

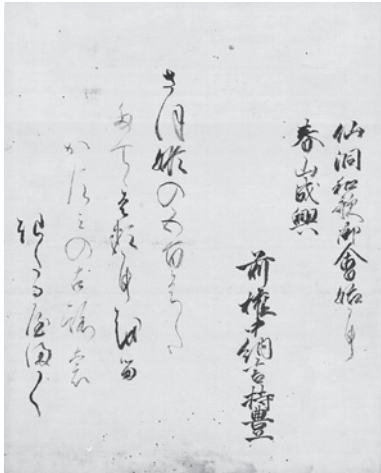
- 蘿萋依松林 可以延百尋 碧蠅附驥尾 可以致千里
天柱并惟馨書「惟馨」(白文方印)「仲明」(朱文方印)
- 38 墨画《牡丹蝶図》
癸丑春二月写 桃仙藤宜郷「藤」(白文方印)「宜郷」(朱文方印)
墨書《唐・陶淵明「四時」詩結句》
「入谷鶴書赴隴」(朱文長方印)
冬嶺秀孤松
- 39 「蘭室」(朱文方印)「豐泰之章」(白文方印)
40 着色《水仙小禽図》
癸多季夏写 葛山柳里之「原里之」(白文方印)「字子美」(朱文方印)
「寸有□□」(白文方印)
- 41 墨書《唐・王維「終南山」詩》
「□□」(朱文長方印)
太乙近天都 連山到海隅
白雲迴望合 青霽入看無
分登中峰變 陰晴衆岳殊
欲投人處宿 隔水問樵夫
享和癸亥之春 庫山箕載書「載」(白文方印)「子泰」(白文方印)
- 42 着色《唐美人図》
玉浦豊女写「金鳳」(白文方印)「豊女」(朱文方印)
- 43 墨書《「大字」「樂只」》
「感照三昧耶」(朱文長方印)
樂只
- 44 藤忠永 于時九十歲「□易氏」(朱文方印)「藤忠永印」(白文方印)
着色《小禽図》
丁卯季春写 玄洲長義「源長義印」(白文方印)「□□古明□□」(朱文方印)
- 45 墨書《五言二句》
「修園」(朱文長方印)
星辰分漢曆 風雨順堯時
- 46 乙亥晚春 靜齋源義知「源義知印」(白文方印)「字子招」(朱文方印)
着色《籠雀図》
甫亭「□□」(朱文白文連印)「□生」(白文方印)
- 47 墨書《漢詩》
「□竇道□□」(白文長方印)
寒烟夜色望茫茫 呼□□□客室
獨□江山悲異土 共憐雲物入初陽
春日欲動□尊泊 仙津終華漢月光
縱夫婦愁添一線 □□自此引盞長
客人□□至日 服元雅「服元雅印」(白文方印)「量卿」(朱文方印)
- 48 着色《司馬光割瓶図》
赤城富苑「赤城」(白文朱文連印)
- 49 墨書《漢詩》
「会心」(朱文瓢筆印)
雨後池塘吹哈驕 筠簾疎動度涼颼
金波忽閃萍開處 月在諫松最上標
丁丑季夏 櫻宇「號」(白文方印)「培齋」(朱文方印)
- 50 着色《春景山水図》
幽篁蕭鹿門山人「忠□」(朱文白文連印)
- 51 墨書《漢詩》
「小釣雪」(朱文長方印)
□府放生經幾秋 尺富輿度屢回郎
金輝只恨□羈束 不著□輝更雨由
詠鶴
- 52 丁丑□夏録旧作 五山「娛庵居士」(白文方印)
着色《雪景落雁図》
紫溟画「□□」(白文朱文連印)
- (4) 武田光一「書画が蒐まる／書画を蒐める」寄合・収集書画帖について、小林忠・河野元昭監修、武田光一責任編集『江戸名作画帖全集X 寄合書画帖 文人諸家』駁々

- 堂出版株式会社、平成九年（一九九七）。
- (5) 高松良幸「『楽翁画帖』について」、『静岡大学情報学研究』二十二号、平成二十八年（二〇一六）。
- (6) 広島県立歴史博物館、前掲図録（二〇一五）。
- (7) 小林忠・河野元昭監修、前掲書（一九九七）。
- (8) 隅川明宏「広島藩主浅野家奉納の大絵馬―『嚴島絵馬鑑』より―」、『広島県立美術館研究紀要』二十号、平成二十九年（二〇一七）。
- (9) 橋本敬一・橋本昭子編『仏通寺の文化財展』図録、三原市教育委員会、平成八年（一九九六）。

（すみかわ あきひろ／当館学芸員）

【別表】揮毫者一覧

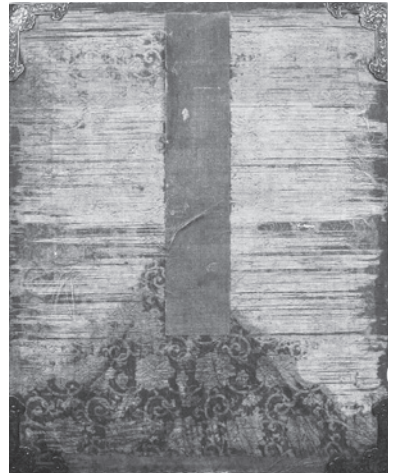
書	揮毫者	経歴	年代	画	揮毫者	経歴	年代
7	森川竹窓(1763-1830)	大坂書家	1799夏	38	藤原宜郷	(不詳)	1793春
4	松平頼救(1756-1830)	常陸宍戸藩主	1801春	23	阿部正精(1774-1826)	備後福山藩世子	1795夏
25	佐野義行(1757-1829)	書家	1801夏	9	板谷桂舟広当(1729-1797)	幕府御絵師	1797
33	細合半斎(1727-1803)	大坂書家	1801	17	加藤信清(1734-1810)	幕臣	1802
16	松倉天遊	江戸書家	1803春	40	柳沢里之(1758-1804)	越後三日市藩主	1803夏
41	庫山	(不詳)	1803	44	森長義(1787-1837)	播磨三日月藩主	1807春
31	栖鳳楼南嶽	(不詳)	1805夏	18	鏑木梅溪(1749-1803)	江戸絵師	
43	本多忠永(1724-1817)	伊勢神戸藩前藩主	1813	21	阿部正倫(1745-1805)	備後福山藩主	
45	佐竹義知(1787-1821)	出羽秋田新田藩主	1815春	5	岡岷山(1734-1806)	安芸広島藩絵師	
49	林檉宇(1793-1847)	幕府儒官	1817夏	2	土佐光貞(1738-1806)	宫廷絵所預	
51	菊池五山(1769-1849)	江戸儒家	1817夏	15	原在中(1750-1806)	京絵師	
39	山内豊泰(1765-1803)	土佐新田藩主		11	酒井忠貫(1752-1806)	若狭小浜藩主	
13	伊藤東所(1730-1804)	京儒家		3	月僊(1741-1809)	僧	
22	皆川淇園(1735-1807)	京儒家		24	原在正(1778-1810)	京絵師	1806以前
10	三井親孝(? -1808)	江戸書家		28	間部詮允(1790-1814)	越前鯖江藩主	
1	芝山持豊(1742-1815)	公卿		12	笹山伊成(? -1814)	長門府中藩絵師	
35	亀田鵬斎(1752-1826)	江戸書家		30	度会東明(? -1816)	長門府中藩絵師	
47	服部小山(1768-1832)	摂津尼崎藩儒官		20	村上東洲(? -1820)	京絵師	
29	亀井昭陽(1773-1836)	筑前福岡藩儒官		14	森狙仙(1747-1821)	大坂絵師	1807以前
19	龍岡長雄	(不詳)	(79歳)	26	狩野洞白愛信(1772-1821)	幕府御絵師	
27	惟醇	(不詳)	(73歳)	36	石里洞秀美之(1756-1827)	筑前福岡藩絵師	
37	惟馨	(不詳)		32	狩野探信守道(1785-1836)	幕府御絵師	
				8	林述斎(1768-1841)	幕府儒官	
				42	平田玉蘊(1787-1855)	備後尾道絵師	1810以前
				50	本多忠升(1791-1859)	伊勢神戸藩主	
				6	「□崔」印	(不詳)	
				34	藤原光紹	(不詳)	
				46	甫亭	(不詳)	
				48	赤城富堯	(不詳)	
				52	紫溟	(不詳)	



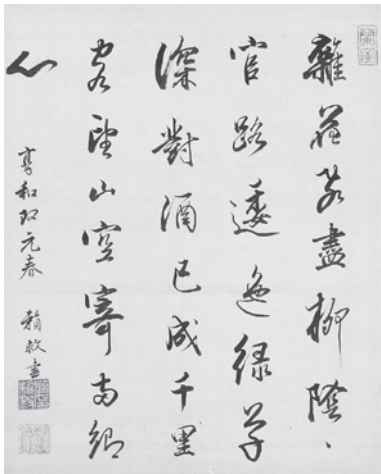
【図1】芝山持豊
《詠「春山成興」歌》



【表紙見返し】



【表紙】



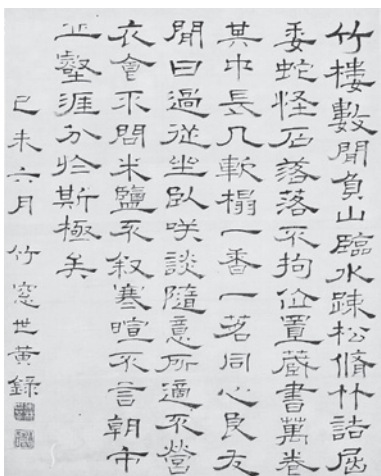
【図4】松平頼救
《唐・盧綸「与從弟瑾同下第後出關言別」詩》



【図3】月僊
《江村舟遊図》



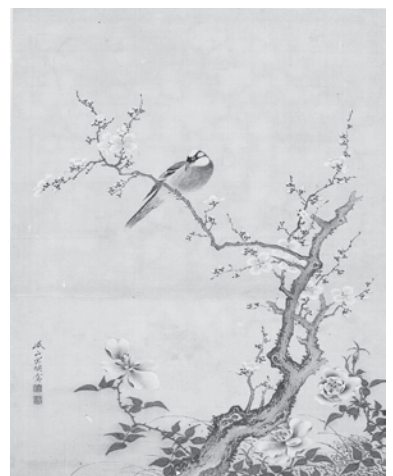
【図2】土佐光貞
《鷲鳥図》



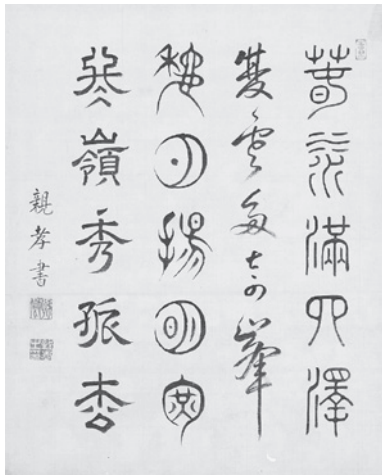
【図7】森川竹窓
《漢文》



【図6】「口崔」印
《秋草図》



【図5】岡岷山
《梅花小禽図》



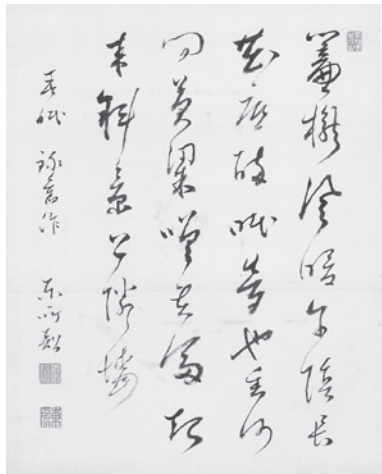
【図10】三井親孝
《唐・陶淵明「四時」詩》



【図9】板谷桂舟広当
《梅人物図》



【図8】林述斎
《草虫図》



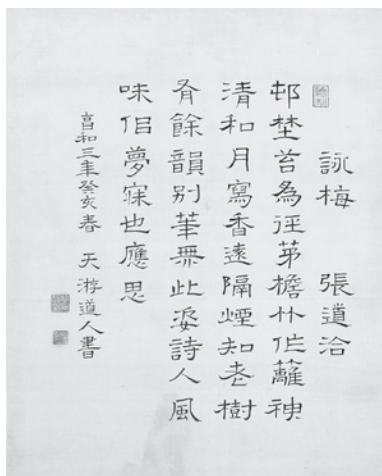
【図13】伊藤東所
《漢詩》



【図12】笹山伊成
《唐人物図》



【図11】酒井忠貫
《薔薇小禽図》



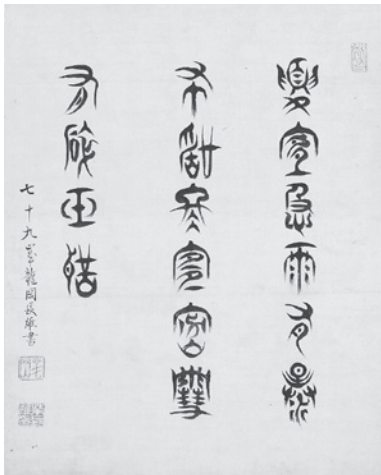
【図16】松倉天遊
《南宋・張道洽「詠梅」詩》



【図15】原在中
《嵐山春景図》



【図14】森狙仙
《猿図》



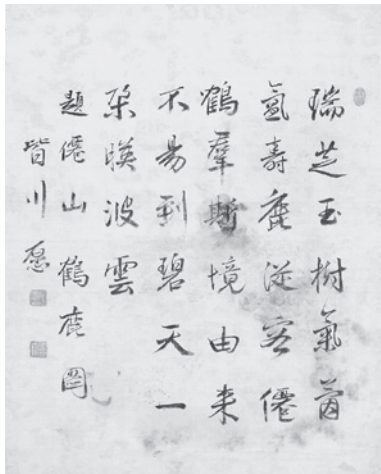
【図19】龍岡長雄
《北宋・王禹偁「黃州新建小竹樓記」句》



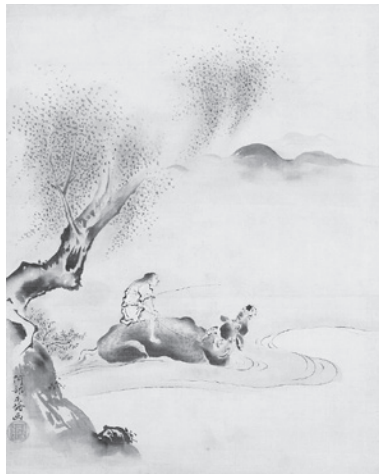
【図18】鍋木梅溪
《桃鴨図》



【図17】加藤信清
《孔子像》



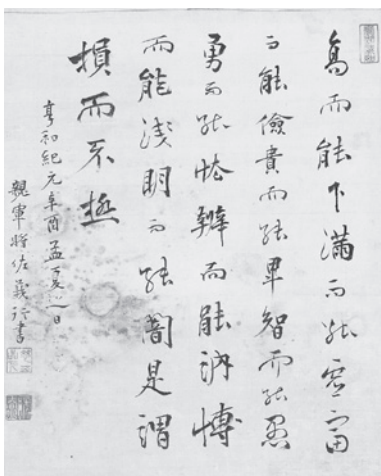
【図22】皆川淇園
《題「僊山鶴鹿図」詩》



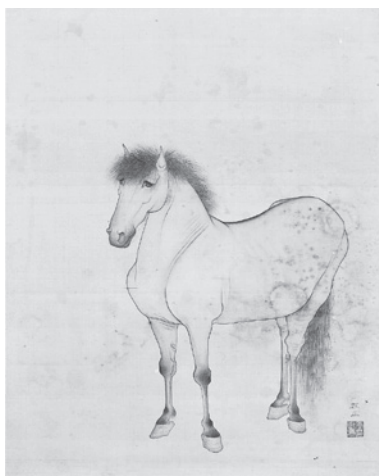
【図21】阿部正倫
《牧牛図》



【図20】村上東洲
《大原女図》



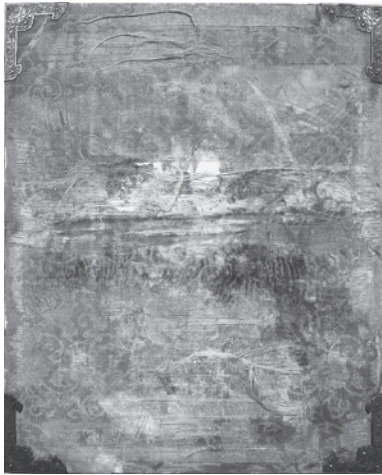
【図25】佐野義行
《前漢・劉向『說苑』卷十一敬慎句》



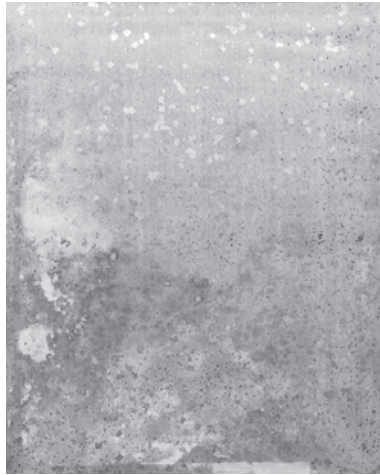
【図24】原在正
《馬図》



【図23】阿部正精
《樓閣山水図》



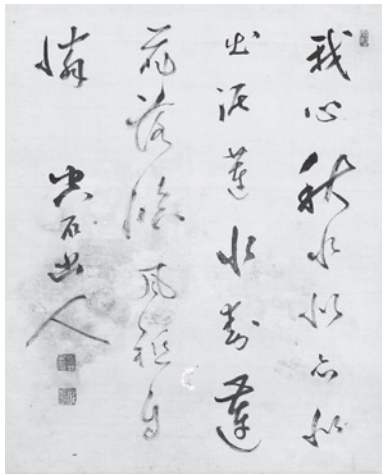
【裏表紙】



【裏表紙見返し】



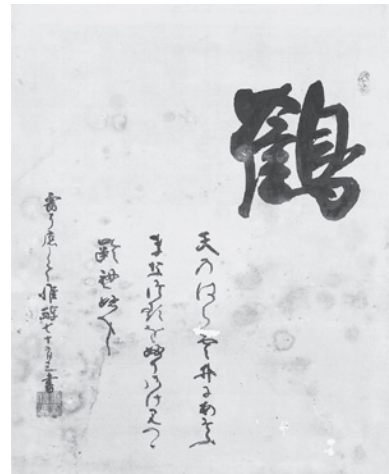
【図26】狩野洞白愛信
《蓮亀図》



【図29】亀井昭陽
《漢詩》



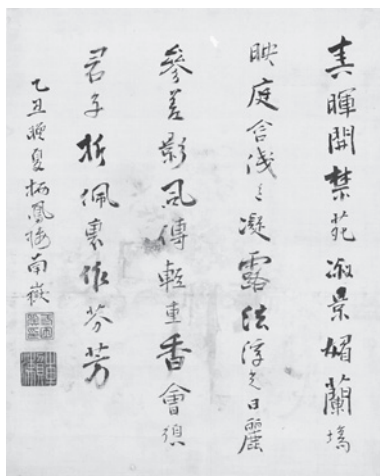
【図28】間部詮允
《維摩居士図》



【図27】惟醇
《詠「鶴」歌》



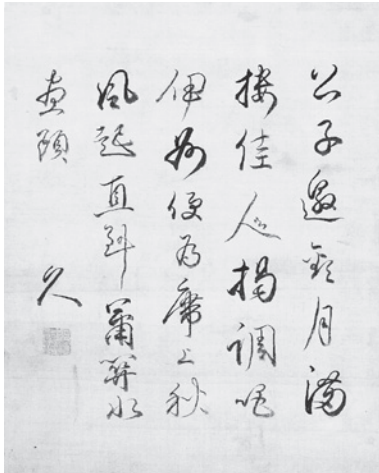
【図32】狩野探信守道
《唐美人図》



【図31】栖鳳楼南嶽
《唐・李世民「芳蘭」詩》



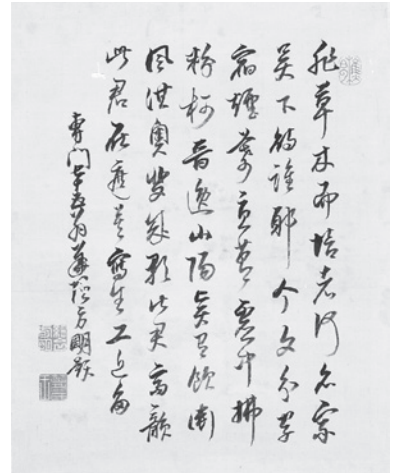
【図30】度会東明
《虹鹿図》



【図35】亀田鵬斎
《唐・高駘「聴歌」詩》



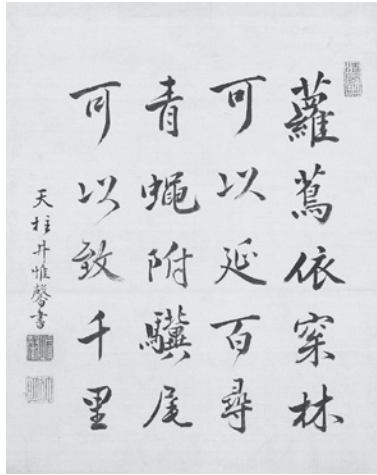
【図34】藤原光紹
《秋草鶉図》



【図33】細合半斎
《漢詩》



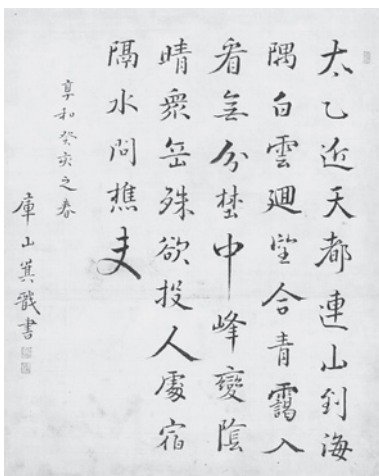
【図38】藤原宜郷
《牡丹蝶図》



【図37】惟馨
《明・田芸衡『玉笑零音』句》



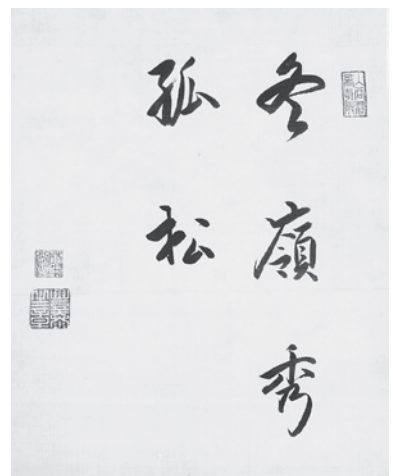
【図36】石里洞秀美之
《波旭日図》



【図41】庫山
《唐・王維「終南山」詩》



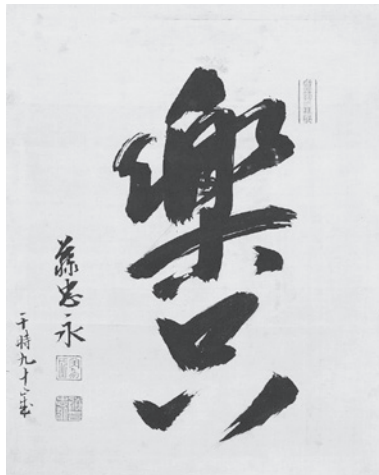
【図40】柳沢里之
《水仙小禽図》



【図39】山内豊泰
《唐・陶淵明「四時」詩結句》



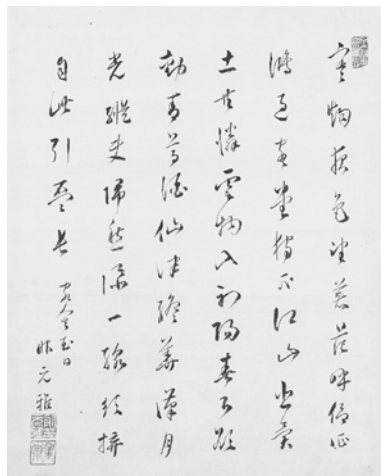
【図44】森長義
《小禽図》



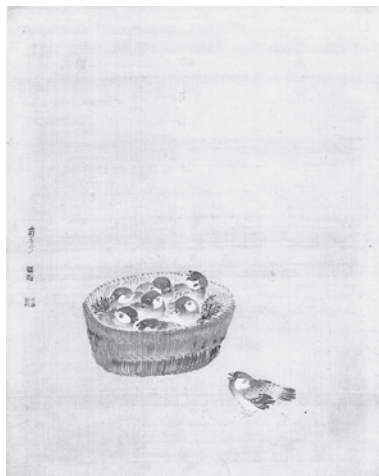
【図43】本多忠永
《二大字「楽只」》



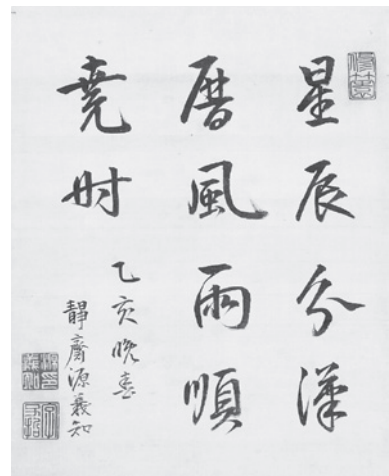
【図42】平田玉蘊
《唐美人図》



【図47】服部小山
《漢詩》



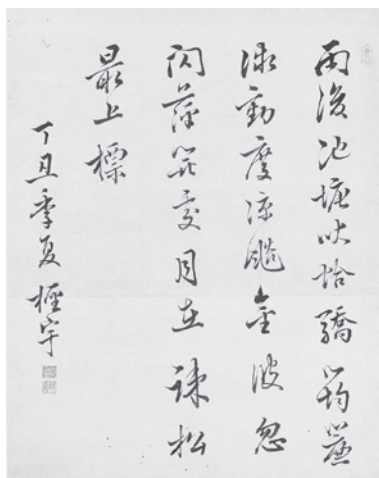
【図46】甫亭
《籠雀図》



【図45】佐竹義知
《五言二句》



【図50】本多忠升
《春景山水図》



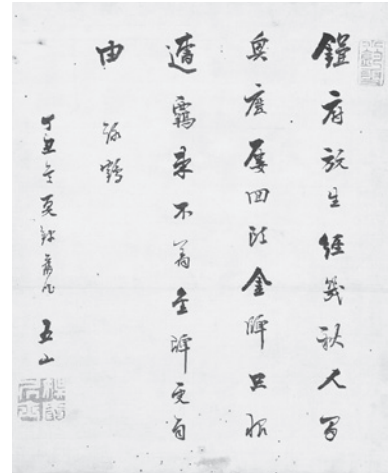
【図49】林櫻宇
《漢詩》



【図48】赤城富堯
《司馬光割瓶図》



【図52】紫溟
《雪景落雁图》



【図51】菊池五山
《漢詩》